

授業評価アンケート結果(2010 秋)

担当者：杉本憲彦

科目名：物理学 II(実験を含む)「気象の物理」

実施時期：秋学期最終講義日

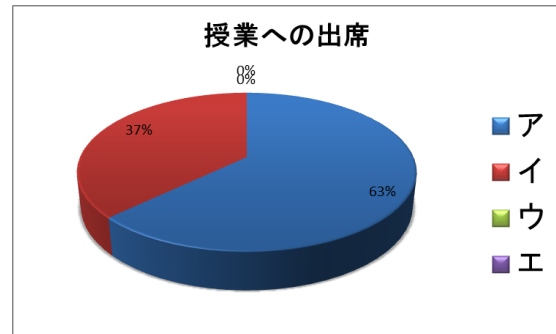
科目設置：日吉

履修者数：127 名

回収数：105 名

1. 授業への出席

ア 全部出席した	66 人
イ ほとんど出席した(80%程度)	39 人
ウ あまり出席しなかった(50%程度)	0 人
エ ほとんど出席しなかった	0 人



2. 授業について

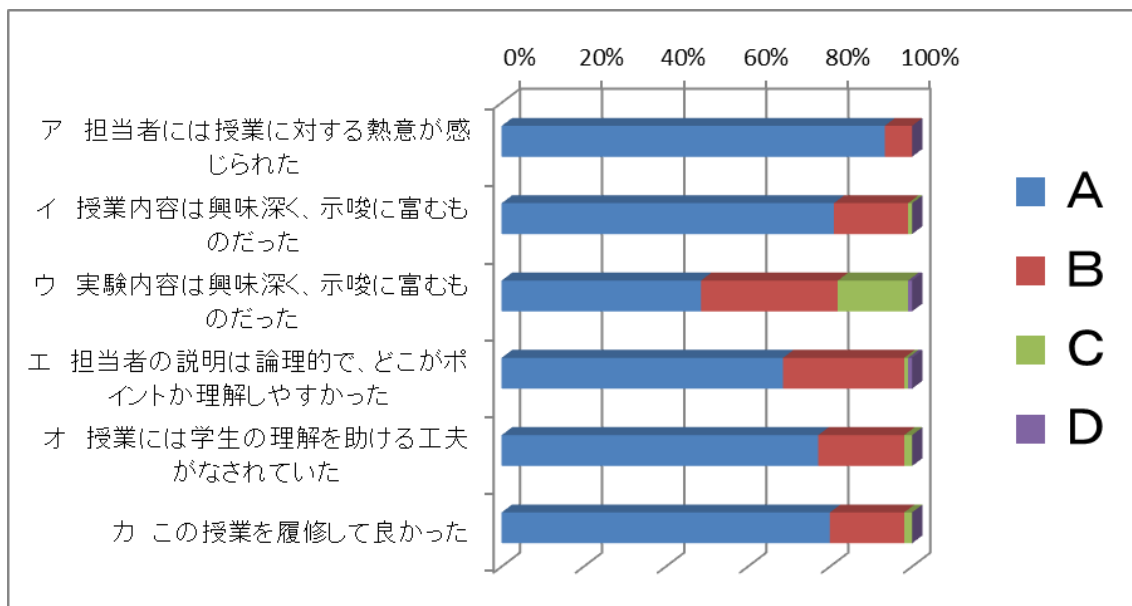
A=そう思う

B=どちらかといえばそう思う

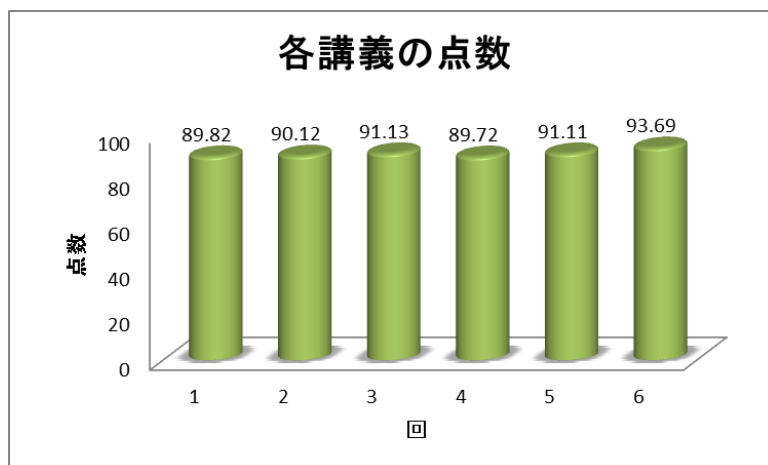
C=どちらかといえばそう思わない

D=そう思わない

	A	B	C	D
ア 担当者には授業に対する熱意が感じられた	98	7	0	0
イ 授業内容は興味深く、示唆に富むものだった	85	19	1	0
ウ 実験内容は興味深く、示唆に富むものだった	51	35	18	1
エ 担当者の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	72	31	1	1
オ 授業には学生の理解を助ける工夫がなされていた	81	22	2	0
カ この授業を履修して良かった	84	19	2	0



3. 各回の講義内容について(100点満点)	平均点
第1回「大気の成り立ち」 - 地球の気温はどうやって決まる? -	89.8
第2回「地球規模の流れ」 - 低気圧が西風に流されるしくみ -	90.1
第3回「雲と降水」 - 雲が浮かび、雨が降る理由 -	91.1
第4回「気象よもやま話」 - 日々の天気の世界裏 -	89.7
第5回「明日の天気」 - 天気予報の限界とカオス -	91.1
第6回「気候の変動」 - 地球温暖化と現代物理学 -	93.7



4. 自由記述(代表的なもの)

今回はレポート課題の提出日と重なったため、レポートに書いたという記述も多かった。

- 身近な話から物理の話までバランスが良く、物理が苦手でもわかりやすかった(6人)
- 自然現象、社会問題、環境問題と広く考えさせられた(4人)、文系の生徒におすすめ
- 気象を物理学的視点で説明してもらえた(3人)、楽しいしためになると思う
- 画像、映像、動画が視覚的で、わかりやすかった(3人)、現象のイメージがわいた
- 熱意がすごい(3人)、物理に対する愛を感じた、先生の生き方はかっこいいと思う
- 試験がないのはうれしい、最後のレポート・感想を書く時間をもう少し欲しい(3人)
- 3時間はボリュームあり、集中するのが大変(2人)、天気関連の話は楽しかった
- 最後の気候変動の回が特に面白かった(2人)、地球温暖化を真面目に調べたい
- 相対性理論(2人)、夜の空の話(1人)、をもっと扱ってほしい
- 先生の人柄が授業の雰囲気をよくしていた、一年間ありがとうございました

5. 講評

昨年度や前期同様、講義全般に関して、概ね好評であった。全体的な評価も前期より高い。特に、地球温暖化の講義は刺激になったようだ。一方で、実験の評価はやはり低い。後期の実験は現代物理学を扱う内容が多いため、実験と講義の間に分野の隔りがある。新たに雪結晶の生成実験を開発中であるが、講義と実験の関連性により配慮していきたい。受講者にとって、気象や地球環境を少しでも考える機会になってくれたらと思う。